

理科（生物基礎） 授業指導計画

授業者 池田 優子

- 1 日 時 令和3年2月12日（金）5限
- 2 実施場所 13HR教室（南館2階）
- 3 H R 13HR
- 4 生徒観 生物の勉強を単語を暗記するだけの生徒が多く、原理や現象から導いたり、つながりを見つけたりすることが苦手である。しかし、グループワークやペアワークでは、自分の意見を伝えたり、話し合ったりすることができる。
- 5 単 元 植生の遷移
- 6 本時の目標 ①植生の成り立ちには光や土壌などが関わることを理解する。（知識・理解）  
②植生の遷移と環境の変化について、話し合いを通して導き出すことができる。（思考・判断・表現）

7 本時の展開

	指 導 事 項	留 意 点
導 入 (5分)	前時に学習した、乾性遷移の長期的な移り変わりについて復習する。	
展開1 (15分)	土壌の成り立ちと種子散布の方法について説明する。	
展開2 (10分)	遷移の進行と環境変化について考えさせる。 ・初めは個人活動 ・次にペアワークで考えを共有	土壌の変化・種子散布の方法などの変化と遷移の各段階の植生との関係性を理解させる。
展開3 (7分)	問題を解く。	各文の間違っている箇所を正しく直すよう指示する。
展開4 (10分)	植生の遷移の分野のキーワードマップを作らせる。 ・単語のつながりを意識させる ・重要だと思ふ単語5つに赤丸をつけさせる  ループリックで自己評価をさせる。	学んだ単語のつながりを意識しながら書くよう指示をする。
まとめ (3分)	環境の変化によって、植生が変化することを確認する。	